

平成28年度第4回甲賀市地域福祉計画審議会【会議結果】

1. 日 時 平成28年11月1日（火） 午後2時～午後4時
2. 場 所 水口社会福祉センター 2階 中会議室
3. 出席者
 - (1) 委員 森田千歳委員、橋本恵順委員、西村敦子委員、栗田修司委員、富岡正義委員、上山清美委員、安達みのり委員、大西安雄委員、辻金雄委員、金子秀明委員、岡田重美委員、打田絹子委員（以上、12人）
【欠席委員】 藤本俊治委員、辻淳子委員、西村與利子委員、
 - (2) 事務局 伊藤勲健康福祉部次長
【健康福祉部社会福祉課】
幡野啓二課長、椎野康浩福祉政策係長、吉川邦彦主査
4. 傍聴者 なし
5. 会議結果
 - (1) 報告事項
計画の体系（基本理念、基本方針、基本施策）について
【主な意見等】
 - 現在、社会福祉協議会が策定している地域福祉活動計画との整合性は取れているのか。
 - 基本理念について、「人々がつながり」というフレーズは、分かりにくい。「人々が助け合い」というフレーズが分かりやすいのではないか。
 - 「人々が助け合い」とした方が、これからの時代、市民同士助けていかなければならないという気持ちになるのではないか。
 - 心豊かに生きることで人々は満足が得られる。そういう意味では、「暮らしの中で感じる幸せ」と言うよりは、「心豊かな幸せ」というフレーズがいいのではないか。
 - ボランティア活動をすると、自分自身にとってもプラスになったということを知ると、助けることにはよい効果があるということを知ってもらうためには「助け合い」というフレーズがいいのではないか。
 - 「人々がつながり」というフレーズに抵抗感はない。むしろこれだけ人々の関係が希薄になっている中、まずはつながることから始めないといけなのではないか。また、関係機関の連携といったことも考えた場合、「つながり」というフレーズが大切ではないか。
 - まずは、「つながり」が基本であって、その次に「助け合い」「支え合い」

ができるため、「つながり」を大事にすることがいいのではないか。

- 災害復旧で近所の方がボランティアで助けてくれたが、そのことが未だに心の負担になってしまっていると聞く。そういう意味では、「つながり」といったフレーズでよいのではないか。
- 主体的な言葉ではないということで違和感を感じることがあるのではないかと思うが、理念としてはいいのではないか。
- 個人、家庭などの単位で生活をする際、誰もが同じ環境の下で生活するわけではない。それぞれの置かれた立場で幸せをどういう風感じて求めるのかとなれば、「暮らしの中で感じる幸せ」でよいのではないか。
- 人によって感じる幸せは違うもの。人から見たらちっぽけな幸せでも自分にとったら大きな幸せの場合もある。
- 「心豊か」のフレーズにある心は大切なこと。ただ、福祉を考えるうえで、心を支える、心を豊かにするためには生活が大切、その意味では、「暮らし」という言葉があるのはいいのではないか。

(2) 意見聴取事項

基本方針、基本施策からみる実施事業の方向性について

【主な意見等】

- 資料3では、重点となる施策はどこに位置づけられているのか。
- 重点課題にもある「移動支援」の施策が全体的に少ない。
- 各事業は、資料に配置されているところに限らず、他の項目(方針)にも当てはまるものが多い。
- 地域で実施する移動支援について、事故へのリスク軽減対策が必要である。
- 甲賀市独自のリスク回避の保険制度を創設してはどうか。
- 生活困窮者等への相談体制の充実が必要。
- 子育て中の母親に対する就労支援も必要。

(3) その他

次回審議会の開催時期について

次回会議は、12月中旬～下旬に開催する予定。

6. 会議録 別添のとおり

7. 会議資料 別添のとおり